



創立 150 周年記念

小川町立小中学校 校歌集

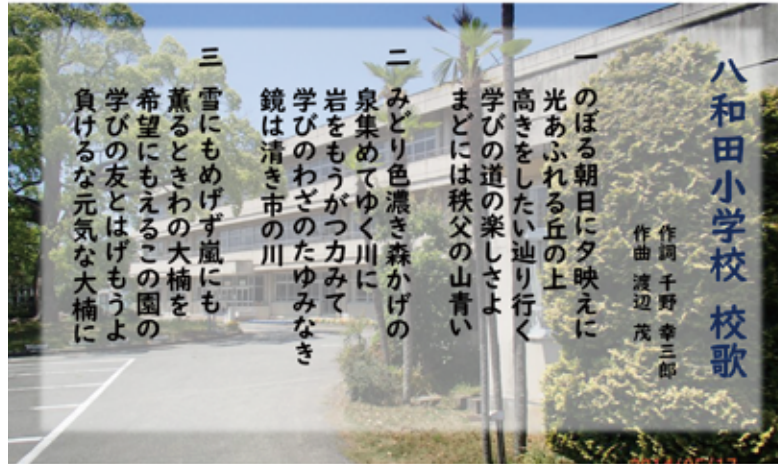
小川町教育委員会
令和6年1月

【 目 次 】

- 1 八和田小学校
 - 2 八和田小学校 伴奏
 - 3 小川小学校
 - 4 小川小学校 伴奏
 - 5 竹沢小学校
 - 6 竹沢小学校 伴奏
 - 7 大河小学校
 - 8 大河小学校 伴奏
 - 9 みどりが丘小学校
 - 10 みどりが丘小学校 伴奏
 - 11 東小川小学校
 - 12 東中学校
 - 13 東中学校 伴奏
 - 14 西中学校
 - 15 西中学校 伴奏
 - 16 樺台中学校
 - 17 樺台中学校 伴奏
 - 18 上野台中学校
- 監修：小川町立小中学校教頭会



小川町立八和田小学校



八和田小学校 校歌
 作詞 千野幸三郎
 作曲 渡辺茂

一 のぼる朝日に夕映えに
 光あふれる丘の上
 高きをしたい辿り行く
 学びの道の楽しさよ
 まどには秩父の山青い

二 みどり色濃き森かげの
 泉集めてゆく川に
 岩をもうがつかみて
 学びのわざのたゆみなき
 鏡は清き市の川

三 雪にもめげず嵐にも
 薫るときわの大桶を
 希望にもえるこの園の
 学びの友とはげもうよ
 負けるな元気な大桶に

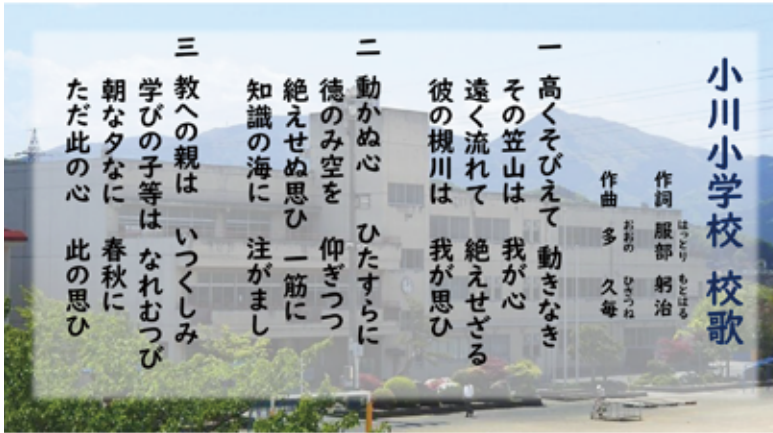
校歌について

八和田小学校校歌は、昭和三十一年十月、前田宗次氏が校長の時に制定されました。当時八和田小学校は、埼玉県教育委員会委員会の音楽教育の研究を行っていました。この研究を成功させるために全職員一丸となって各地区に出張し、PTAの皆様の協力も得て大きな成果をあげることができたとのことです。

この研究の発表会の時に、この校歌が発表されました。作詞は、高谷地区出身の千野幸三郎氏です。氏は、近隣の学校の校長を務められ、東中学校の校歌も作詞されています。作曲は東京芸術大学の渡辺茂教授です。ほんとによい校歌ができたので、前田氏はその時の感激を後々まで忘れられなかったとのことです。

(八和田小学校百周年記念誌の前田宗次氏寄稿文を元に作成)

小川町立小川小学校



小川小学校 校歌
 作詞 服部躬治
 作曲 多 久毎

一 高くそびえて 動きなき
 その笠山は 我が心
 遠く流れて 絶えせざる
 彼の槻川は 我が思ひ

二 動かぬ心 ひたすらに
 徳のみ空を 仰ぎつつ
 絶えせぬ思ひ 一筋に
 知識の海に 注がまし

三 教への親は いつくし
 学びの子等は なれむつび
 朝な夕なに 春秋に
 ただ此の心 此の思ひ

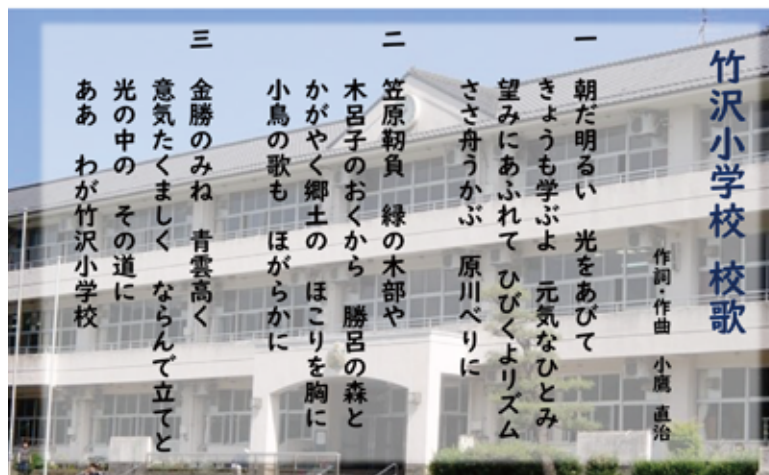
校歌の由来について

高く聳えて 動きなき その笠山は 我が心
 遠く流れて 絶えせざる 彼の槻川は 我が思ひ

これは、明治二十年(一八八七)に設立された小川高等小学校の校歌の第一節である。作詞者は服部躬治であり、作曲者は多久毎である。服部躬治は、新派和歌運動に活躍した日本文学界の異才である。彼の作品は、沈黙、明徹、気魄のこもるもので明星派の先駆となつてゐる。作曲者 多久毎は祖先以来宮中に奉仕した雅楽の伝承者であり、この校歌は、明治三十七年頃の作と見られる。両氏の充実した時代の作である。小川高等小学校は、その後明治四十年(一九〇七)の小学校令の改正で、尋常小学校と合併し、明治四十二年小川第一尋常高等小学校として開校された。小川高等小学校の最後の校長岡元三は、この校歌の失われるのを惜しみ、校歌選定認可願を時の埼玉県知事島田剛太郎に提出した。島田知事は専決せず、さらに文部大臣小松原英太郎へ認可の申請をした結果、遂に認可されたのが旧小川高等小学校校歌であった。小学校令改正と同時に校歌が誕生し、文部大臣の認可を得た校歌であることはおよそ他に例がないであらう。現在、小川小学校児童は誇り高くこの校歌を歌い続けている。

「小京都小川町の魅力(埼玉県)」神戸正吉氏寄稿文より

小川町立竹沢小学校



校歌の由来について

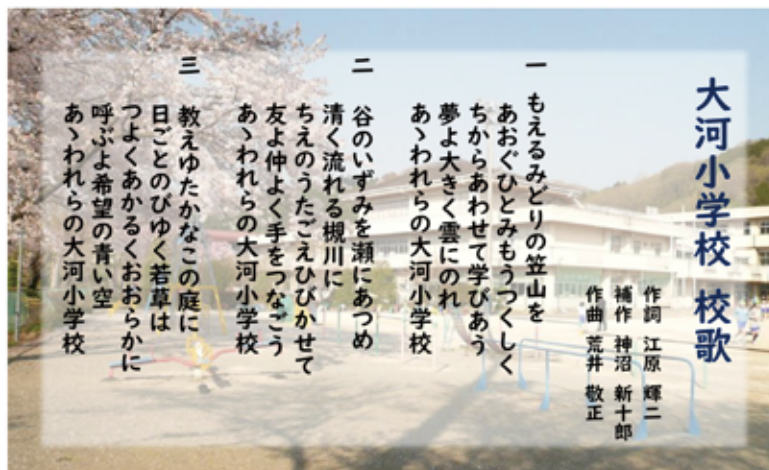
竹沢小学校校歌は、昭和四十四年に制定された。これは、昭和四十三年度PTA事業(会長 吉田稔氏)において企画された「PTA二十周年記念事業」として、校旗の復元と歴代校長肖像画掲額と共に行われた。

校歌を作詞・作曲した小鷹直治は、旧亀井村(鳩山町熊井)の出身で、初任として大正二年(一九一三)より一年間竹沢小学校で教鞭をとった。当時から音楽指導に長じており、その後、県内・都内で音楽教育に携わり、昭和十五年(一九四〇)文部省視学調査員、昭和二十六年(一九五二)練馬区立開進第三中学校校長等を経て、昭和四十四年(一九六九)武蔵野音楽大学教授となった。その間、児童の合唱・合奏指導を行い、鳩山町立亀井小学校愛唱歌(旧校歌)「亀井のこゝろ」、鳩山町立鳩山中学校校歌等を始め、県内外の校歌の作詞・作曲を行った。

これらの実績や縁で竹沢小学校校歌の作成を依頼したのもと思われる。校歌の歌詞の中には、学校区内の地名「原川(はらがわ)」、「笠原(かさばら)」、「初負(ゆきえ)」、「木部(きべ)」、「木呂子(きりこ)」、「勝呂(すぐろ)」が織り込まれており、明るく色豊かに実感溢れる竹沢の風景を巧みに織り込み、新しい軽快なリズムは、校歌として最高級の傑作であると言える。

「竹沢小学校開校百年誌」(昭和四十九年発行)参照

小川町立大河小学校



校歌の制定

PTA役員の間からは昭和三十七、八年頃から校歌制定が話題となっていた。幸福の絶頂にあつて喜びを分かち合える校歌、逆境の時勇気を与えられる校歌、始業式に、卒業式に、プールの開きに児童の集うところなど湧き上がる校歌。また大河小学校OBの集う所など如何なる所でも、若き日の感激にひたり郷愁を呼び起こし、皆一緒になつて歌える校歌が欲しい。開校以来の歴史と伝統を、次世代に語り伝えるべき校歌の制定の声が高まったのは、昭和四十一年のことである。

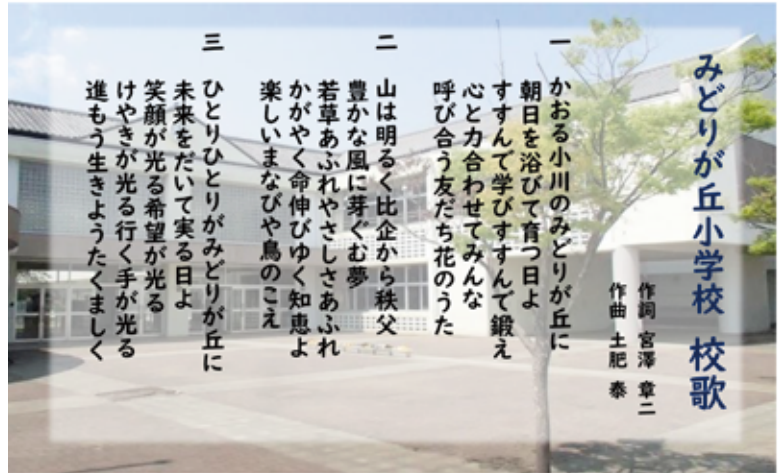
同年五月三十一日、校歌作成準備委員会が開かれ、今後の計画が検討された。つづいて六月三日の委員会にて、懸賞募集「大河小学校校歌」と題する印刷物の地区内に配付する共に、「広報おがわ」にも校歌歌詞の募集を掲載した。八月三十一日募集締切りまでに、二十八編の応募をみた。

九月十六日学校代表、PTA正副会長、分館長、生産森林組合正副会長など総勢十名の選考委員の厳選なる審査の結果、一位には、小川町小川一八八にお住まいの江原輝二氏の作品が選ばれた。尚作曲は熊谷市の荒井敬正先生に依頼し、昭和四十二年一月三十一日(開校記念日)に多数の来賓を仰ぎ、四年生以上の生徒によって、校歌の発表会が講堂で催された。

以来校歌は、入学式、卒業式の儀式にはもちろん修学旅行や遠足の車内、また日常生活の中でもふと口ずさむ心の歌として、大河地区の人々の心の中に生き続けていくのである。

「大河小学校のあゆみ」(昭和五十九年発行) 参照

小川町立みどりが丘小学校



みどりが丘小学校 校歌

作詞 宮澤 章二
作曲 土肥 泰

一 おおる小川のみどりが丘に
朝日を浴びて育つ日よ
すすんで学びすすんで鍛え
心と力合わせてみんな
呼び合う友たち花のうた

二 山は明るく比企から秩父
豊かな風に芽ぐむ夢
若草あふれやさしさあふれ
かがやく命伸びゆく知恵よ
楽しいまなびや鳥のこえ

三 ひとりひとりがみどりが丘に
未来をだいて実る日よ
笑顔が光る希望が光る
けやきが光る行く手が光る
進もう生きようたくましく

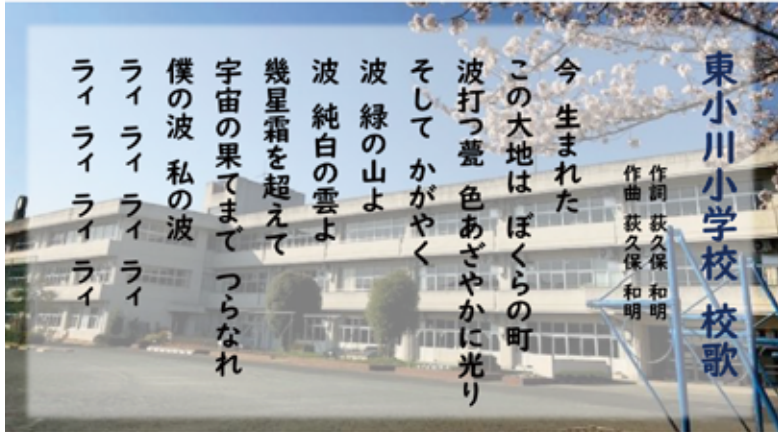
校歌について

作詞 宮澤 章二氏
大正八年 埼玉県羽生市生まれ
昭和十八年 東京大学文学部美学科卒業
日本童謡賞、赤い鳥文学特別賞、埼玉文化賞など受賞
県文化功労者知事表彰、地域文化功労者文部大臣表彰他
元大宮市教育委員長
詩集に「空存」、「宮澤章二詩集」他
童謡集「知らない子」の他、合唱曲の詩多数

作曲 土肥 泰氏

昭和三年 埼玉県浦和市（現さいたま市）生まれ
昭和二十九年 東京芸術大学音楽部専攻科卒業
昭和三十四年 東京放送（TBS）作曲国際コンクールにて東京放送賞
昭和三十七年、三十九年 東京放送「日本を素材とする作曲コンクール」にて
東京放送賞特別賞など受賞
埼玉大学教育学部教授、埼玉県音楽家協会会長
「交響曲―梵唱変容」他、校歌、社歌など多数

小川町立東小川小学校



東小川小学校 校歌

作詞 荻久保 和明
作曲 荻久保 和明

今 生まれた
この大地は ぼくらの町
波打つ薔 色あざやかに光り
そして かがやく
波 緑の山よ
波 純白の雲よ
幾星霜を超えて
宇宙の果てまで つらなれ
僕の波 私の波
ライライライライ
ライライライライ

校歌について

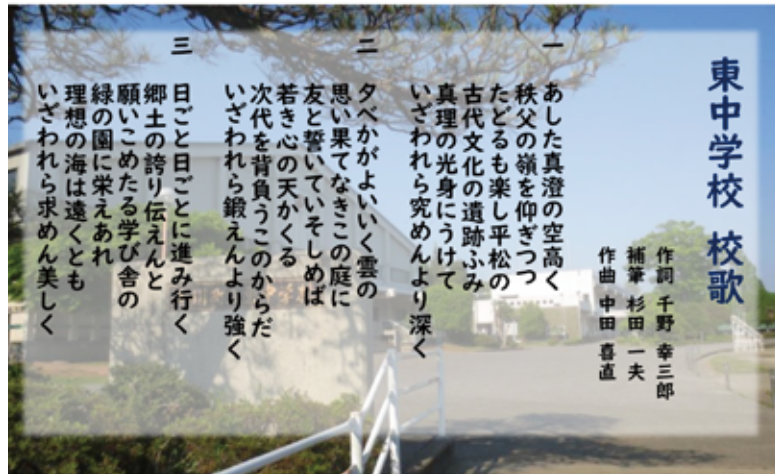
「心の波」

荻久保 和明

できたばかりのま新しい学校の屋上から周囲を見回した。なだらかな緑の丘の中に生まれつたばかりの街である。赤や青のいろとりどりの屋根が波に見えた。その先には黄緑の山の波が、その先には純白の雲の波が。そして心の波は宇宙の果てまで、時間さえも超越して進んで行くことができる。望むべくもないが、宮澤賢治の宇宙に近づきたいものだ。この校歌は難しい。でも、こう書きたかった。

音源提供：勿忘歌～わすれなうた～
<https://www.youtube.com/c/wasurenauta>

小川町立東中学校



東中学校 校歌

作詞 千野幸三郎
補筆 杉田一夫
作曲 中田喜直

- 一 あした真澄の空高く
秩父の嶺を仰ぎつつ
たどるも楽し平松の
古代文化の遺跡ふみ
真理の光身にうけて
いざわれら求めんより深く
- 二 夕べがよいいく雲の
思い果てなきこの庭に
友と誓いていそしめば
清くたゆまぬ市野川
理想の海は遠くとも
- 三 日ごと日ごとに進み行く
郷土の誇り伝えんと
願いこめたる学び舎の
緑の園に栄えあれ
理想の海は遠くとも
いざわれら求めん美しく

校歌について

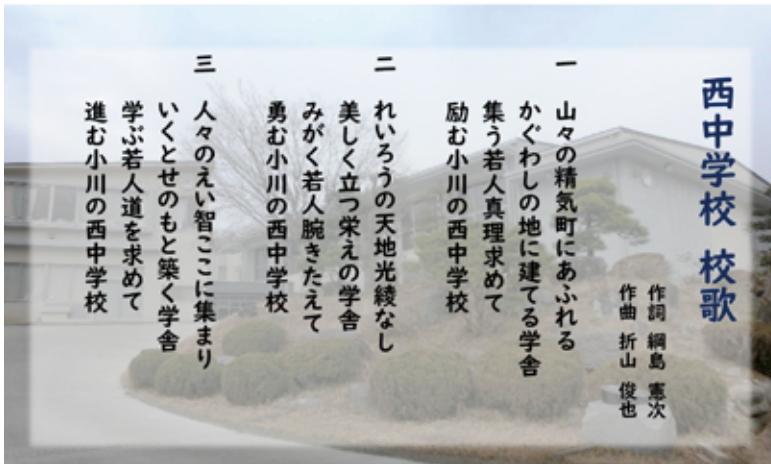
昭和四十三年十一月十日東中学校校歌を制定。
小川中学校と八和田中学校が統合する際に、八和田
中学校の校歌を基にして作られた。

- 八和田中学校校歌
作詞 千野幸三郎
作曲 下總統一
- 1、朝真澄の空高く
秩父の嶺を仰ぎつつ
希望花咲く学び路を
たどるも嬉し峰が原
真理の光身にうけて
 - 2、夕かがよい行く雲の
思いはてなきこの庭に
友と誓いていそしめば
清くたゆまぬ市野川
理想の海は遠くとも
 - 3、日々新たに生業を
楽しくはげむわが郷の
みどりに曇りはえて
若き心の天翔ける
学びの園に栄あれ

この歌詞に杉田一夫氏が補筆をし、東中学校校歌が
作られた。

また、八和田中学校校歌の作曲者は下總統一氏であ
ったが、東中学校校歌の作曲者は中田喜直氏となり、曲
調も変わっている。

小川町立西中学校



西中学校 校歌

作詞 網島憲次
作曲 折山俊也

- 一 山々の精気町にあふれる
かくわしの地に建てる学舎
集う若人真理求めて
励む小川の西中学校
- 二 れいろうの天地光綾なし
美しく立つ栄えの学舎
みがく若人腕きたえて
勇む小川の西中学校
- 三 人々のえい智ここに集まり
いくとせのもと築く学舎
学ぶ若人道を求めて
進む小川の西中学校

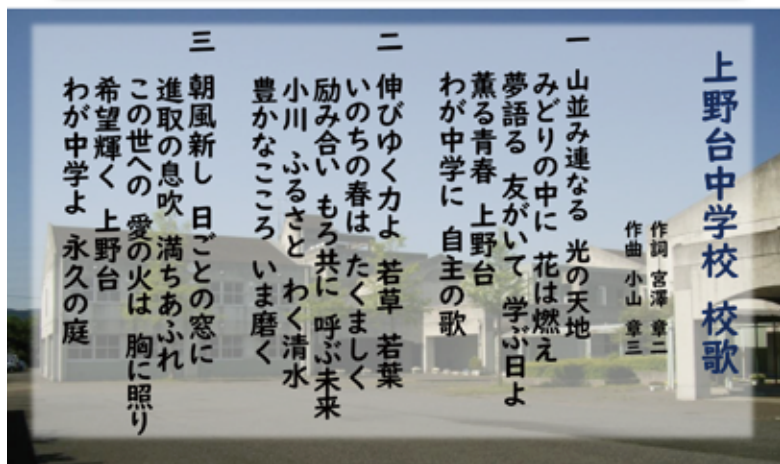
校歌の由来について

昭和三十六年、当時の大河中学校と竹沢中学校が
統合され、小川町立西中学校が開校した。開校当時
は、まだ校歌は制定されていなかった。

昭和三十七年十一月十六日に、埼玉大学教育学部
音楽科教生十名余りを教育学部池田教授が引率し
て、開校間もない西中学校を參觀したという記録が残
っている。こうした縁もあってか、校歌制定の気運が高
まり、昭和三十八年三月八日に、西中学校校歌発表会
が行われた。作詞は、当時の埼玉県教育委員会教育長
の網島憲次氏、作曲は埼玉県の音楽教育の牽引者の一
人、埼玉大学講師の折山俊也氏である。

本校校歌冒頭の「山々の精気」という歌詞は、西中学
校を包み込む比企の素晴らしい自然環境を象徴した
言葉である。また、「若人」という言葉には、躍動する
本校生徒の力強さとしなやかさが表現されている。歌
詞の中のこうした一つ一つの言葉が、明るくそして力
強いメロディによって一層その輝きを増し、生徒の心
中に染みこんでいく。校歌の最後に「西中学校」と歌い
あげるとき、生徒の心の中に西中学校生徒としての誇
りと愛校心が育まれる。これが、昭和から平成、令和と
半世紀を超えて歌い継がれてきた西中学校の校歌で
ある。

小川町立上野台中学校

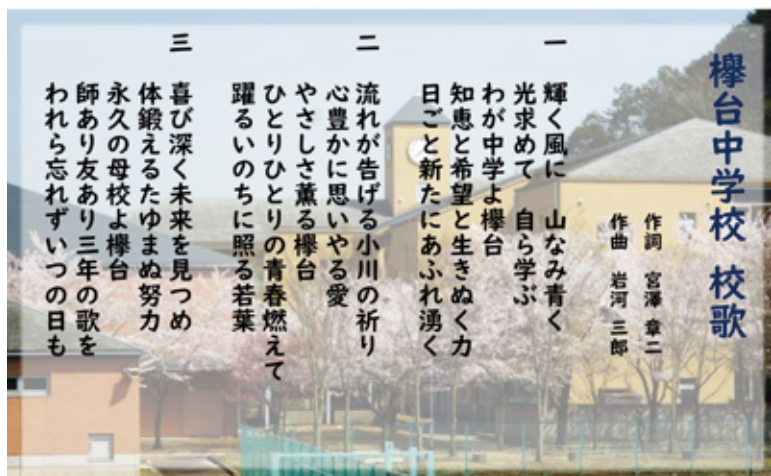


平成二十三年三月に閉校となった上野台中学校は、現在サテライトオフィス、コワーキングスペースとして整備され、域外の企業、町内事業者、フリーランスなどが集い、心豊かな未来と地域社会を創造する場所として生まれ変わっています。

また、レンタルキッチンも整備され、併設するカフェスペースは誰でも気軽に立ち寄れる憩いの場となっています。



小川町立櫛台中学校



校歌の由来について

校歌作詞のため学校を訪れたのは、山並みの緑が美しい本年（平成九年）六月十六日、梅雨の季節にもかかわらず、よく晴れた日でした。歌詞に対する校長先生のご希望は「学校教育目標の三項目・自ら学ぶ・思いやる・体を鍛える、を入れること」でしたので、これを基本において全体を構成しました。学校を訪れる前、学校周辺の全景写真を教育委員会から送っていただいたのですが、それを眺めながら、ふと私の心に「ああ 山なみにいだかれて 天に連なる 我が思い」の詩句が浮かびました。この思いが歌詞全体を貫いています。

作詞者 宮澤章二氏 寄稿文より